

議会だより

令和2年5月

もろっか

令和2年 第165号
編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会



七ツ山小学校



諸塚小学校



諸塚中学校



荒谷小学校

村内小中学校入学式の様子

もくじ

- 3月定例議会の概要…………… 2
- 当初予算…………… 3
- 総括意見・個別意見…………… 4
- 議会議務調査報告…………… 5
- 一般質問…………… 6
- 総括質疑…………… 9
- 議会議務活動報告…………… 12

30億1千万円(当初予算)

令和2年度一般会計予算

令和2年 第1回定例会

(前年度 28億9千7百万円 比較 1億1千3百万円増)

議会費  4,600万円	総務費  5億1,100万円	民生費  4億300万円	衛生費  1億4,900万円
農林水産費  7億5,000万円	商工費  5,000万円	土木費  2億8,900万円	消防費  4,100万円
教育費  2億6,500万円	災害復旧費  800万円	予備費  1,000万円	公債費  2億9,800万円



委員会審査の様子



委員会審査の様子

議案の概要

令和2年第1回諸塚村議会定例会

(3月4日～13日)

予算認定8件、補正予算7件、条例5件が提出され、審議が行われた。

令和2年度 一般会計予算及び特別会計予算		
一般会計	30億1千万円	
全特別会計	10億8千504万7千円	
令和元年度 一般会計補正予算及び特別会計補正予算		
項目	補正額	予算総額
一般会計	△2億1千400万円	34億500万円
6特別会計	76万4千円	10億8千236万9千円

一般会計予算は、前年度比で1億1千300万円の予算増となりました。4年連続で普通交付税が減少しており、4年間で3億円弱の減少です。補正予算については、事業費確定による補正です。

令和2年度 予算額	
諸塚村一般会計	30億1千万円
国民健康保険特別会計	3億3千846万6千円
後期高齢者医療特別会計	3千70万5千円
介護保険特別会計	2億7千699万7千円
簡易水道事業特別会計	2千721万9千円
公共下水道事業特別会計	1千772万9千円
国民健康保険診療所事業特別会計	3億8千700万円
発電事業特別会計	693万1千円

令和元年度 補正予算額		
項目	補正額	予算総額
諸塚村一般会計	△2億1千400万円	34億500万円
国民健康保険特別会計	2千475万3千円	3億6千829万9千円
後期高齢者医療特別会計	△351万5千円	2千922万円
介護保険特別会計	△3千111万2千円	2億5千553万6千円
簡易水道事業特別会計	△233万8千円	2千811万8千円
公共下水道事業特別会計	△402万4千円	1千719万6千円
国民健康保険診療所事業特別会計	1千700万円	3億8千330万円

所管事務調査報告
総務・産業建設常任委員会

2月7日に美郷町へ廃校施設の有効利活用と加工場の運営状況について所管事務調査を実施した。南郷の水清谷小学校跡地では運動場全面と校舎の屋根を利用した太陽光発電施設を設置した活用を図っている。

次に、北郷では、旧黒木小学校が閉校されたことにより、施設跡地を再利用し移住・定住拠点施設として整備をしている。2階部分に、レンタルオフィス1室・お試し滞在宿泊施設3室を有し、さらに3階には町営住宅5室を備える複合施設として誕生している。

また、町営住宅5室は、公営住宅に準じた家賃算定としており、現在、救急隊員を含めて全室利用されている。本村でも、既に1校が閉校され、令和3年3月には七ツ山小学校が閉校の予定であるが、2校ともに有効利活用ができる施設となるよう、地域住民の意見を確

認し、深い議論を交わしながら早急な対策ができるよう取り組んでいくことが望まれる。昨年の12月20日に耳川広

域森林組合の平野組合長が諸塚村と議会に対して、諸塚加工センター第1工場の運営方針について今年度をもって、休止する旨の説明と理解を求めて来村された。その時にも木材市況や加工製品の流通状況について話を伺ったところであるが、今回は東郷町の本所において加工センター全体の運営と方向性や木材及び市況について説明をお願いしたところ、ご多忙中にも快く引き受けていただき長田参事と黒木加工部長も同席し、対応してもらった。令和元年度の木材価格の平均価格は、立米あたり11,527円であり1月においては11,000円を切る状況にあり、製品も今まではグリーン材で売れていたものが乾燥材でなければ売れなくなってきた。国内の戸建て住宅の着工戸数が90万戸を割る状況が予想される中で今後も市況としては厳しい状況が続くので

布するうなぎの標本が展示されている。河川は森林と共に共存することが重要であり、自然生態系の大切さを学ぶ施設として、県内の子ども達にも提供している。

施設の有効活用を図っている。お試し滞在宿泊施設は、移住希望者のみが利用できる4人部屋が1室、1泊2千円、2人部屋が2室、1泊1千円と利用しやすい設定であり、長い方で31泊する等、多くの定住希望者が利用しており、将来にわたり跡地利用として期待ができる。

はないかと思われる。諸塚、椎葉、北郷の各工場で柱、母屋、小割製品を継続して生産しながら、販売においては耳川林業とともに一本化の方向で検討がされているようである。第1工場は今まで、小径木の加工の役割を担ってきたが、原木の大径化や、バイオマスへの燃料化等で慢性的な原木不足に加え施設の老朽化等を考慮すると経営的な面も含め休止せざるを得ない方向で決定された。素材受け入れは今までどおり、第2工場では受け入れを行いながら、従業員についても配置転換はあるものの継続して雇用することである。10年先の加工工場の在り方については見通しがつかないとのこと話されたが、今後、既存の施設の在り方については行政、議会、森林組合で密接な関係を保ちながら協議していくことが重要であると感じた。

総括意見

政府は、「経済再生なくして財政健全化なし」の基本方針のもと、新経済・財政計画に沿って、デフレ脱却・経済再生と財政健全化に取り組み、行政手続きのワンストップ化などによる住民サービスの質の向上を図ることとしている。次世代型行政サービスの早期実現等を盛り込んだ改定改革行程表に基づき、国家財政の厳しい状況を踏まえ、引き続き、聖域なき徹底した歳出全般にわたり歳出改革を力強く推進するとし、地方においても国の取り組みと基調を合わせ徹底した見直しをすすめる方針である。

このような状況の中、予算編成にあたっては、主財源となる地方交付税の4年連続の減額を含め、人口減少に伴う労働力の不足や急激な時代の変化による経済情勢や国・県の制度の多様化等先行き不透明のもと、厳しい情勢ではあるが、財源不足に伴う基金の繰入を行い、「村民の暮らしの視点」にたった村民経済を最優先とする予算編成が組まれている。

令和2年度一般会計当初予算は、30億1,000万円(前年度は骨格予算)、新体制2年目の本格予算となっており、対前年度比3.9%(骨格予算に対して)の増額予算となっているが、限られた予算の中で、最大の効果が発揮できる、村行政・村民一体となった地域密着型の執行を期待したい。

全国共通の人口減少問題もある中で、森林環境譲与税が導入され、林業立村を掲げる本村にとっては、担い手対策など福利厚生を含めて森林整備に有効利活用できる体制づくりに期待したい。さらに第6次諸塚村総合長期計画の策定もあり、この計画に基づき、村民が希望を持って安心して暮らせる諸塚村の創造を熱望し総括意見とする。

個別意見

- 1. 森林環境譲与税の有効利活用
- 2. 人口減少対策(労働力確保、定住・移住対策及び関係人口の構築)
- 3. せせらぎの里の運営健全化
- 4. 特産品販売の強化



せせらぎの里



福祉職員住宅

一般質問

今回4名の議員が質問をしました。

① 気候非常事態宣言について



尾形 浩一 議員

問 現気候非常事態宣言について村長の考えを伺いたい。

西川村長

答 諸塚村総合長期計画にも反映させて気候非常事態宣言を行うことで、環境を守るために、村として又、村民一人ひとりができることを考える良い機会になると考える。よって、本定例会最終日に宣言議案を追加上程する。

② 林業、椎茸作業者の負担軽減について

問 尾形浩一議員
林業、椎茸作業従事者の負担軽減について、村長の考えを伺いたい。(空調服・パワースーツの導入について)



西川 健 村長

答 西川村長
空調服については、今年度森林組合造林班33着配布され、ウッドピア諸塚についても県の補助事業で来

③ 特産品開発について

問 尾形浩一議員
特産品の開発について、村長の考えを伺いたい。

西川村長

答 さまざまな課題があるが、村として、生産者及び加工グループが自主性と意欲を持って取り組めるよう環境づくりや、適切なアドバイスができるように情報収集や研修に努める。

① セツ山小学校開校後の児童の登下校について



岩本 國和 議員

問 岩本國和議員
セツ山小学校は、創立から140年余りの歴史を閉じ、来年3月末に閉校が決定している。現在、閉校準備委員会が設立され、検討されている。今後、行政にも支援をいただくことがあると考えられるが、配慮をいただきたい。閉校後は、セツ山小学校の児童は諸塚小学校に登校することになると思うが、登下校についてどのように対応するのか、村長に伺いたい。

西川村長

答 七ツ山小学校校区の児童・園児についても飯干線の路線バスを利用し、諸塚小学校、幼稚園へ登校・登園してもらうことを考えている。路線バスの時刻変更または運行経路の変更については、本村の公共交通会議の中で検討を行えば可能なので、保護者、学校とも相談をしながら、七ツ山小学校閉校後の児童の登下校については、全体的なものも視野に入れながら検討します。七ツ山小学校の閉校に伴う式典などの開催や記念誌、記念碑の作成については、保護者や地域の方々に負担がかららないよう御協力させていただきたいと考えている。

① 国道503号飯干峠トンネルの早期着工に向けた取り組みについて



田原 尚美 議員

問 田原尚美議員
2月に本村において開催された国道503号飯干峠トンネルシンポジウムは、日向圏域の1市2町2村、西臼杵3町の圏域の方々が一堂に会して大変有意義な大会になった。今後は、この大会で申し合わせた5年後に向けて、目的達成のため、村長がリーダーシップを発揮される最大のチャンスだと思うが、今後

の取り組みについて考えを伺いたい。

西川村長

答 国道の改良整備・トンネル工事については、財源の確保など難題があるが、シンポジウムを契機として、さらなる要望活動を充実・展開し、早期整備実現に向けて取り組みべきと考えている。このため、日向圏域は一つという大変ありがたい川下・圏域のご理解、お力添えをさらに仰ぎ、503号整備促進期成同盟会を初め、関係者の了解を得ながら発展的な取り組みをしていきたい。

田原尚美議員

問 田原尚美議員
昨年、行政と議会が一緒になって国のほうにいきつ回り、要望活動を行えたことは、大変良かったと思う。シンポジウムで講演された鎌原副知事から、「声は大きいほどいい」という

② 新型コロナウイルスの対策について

田原尚美議員

問 田原尚美議員
感染経路が不明な新型コロナウイルスによる肺炎の患者が国内外に拡大し、その感染はさらに進行、国内全域に拡大することは時間の問題だと考えられる。本村としても対応策の協議を進めていると思うが、現時点での状況につい

て、どのような対策を検討しているのか伺いたい。

西川村長

答 日々変動するこの感染状況において、偏見や差別抑制に努めるとともに、平成26年9月に作成した諸塚村新型コロナウイルス等対策行動計画に基づき、国の発信する法令、方針、声明などの情報的確・適正な情報発信に努め、関係機関と共有を図るとともに、村内での想定される事態を常に心構え、疑いのある方の相談や村民の不安解消に努めるよう、庁内関係機関と連携し合い、新型コロナウイルス感染症対策をさらに進めていく。

田原尚美議員

問 田原尚美議員
国が、臨時休校に伴って子供の世話をするため、休職した保護者の収入を補填する支援策を公表した。諸塚でも該当する事例



甲斐 教育長

があるのか。事業所で働いておられる方は把握ができると思うが、例えば農林業の方とかどうなるのか、都会と農村部とか、地方に格差が出るのではと思っているが、その辺もきめ細かく調査をしていただいて、中央の方に声を届けていただきたい。

甲斐教育長

答 最近共働きの家庭も増えてきているし、仕事を休んで小さい子どもを見ているというケースもあるかと思う。要望があれば学校なりどこかに一時的に預かるというような対応も必要と思うが、今のところそういう要望は出てきていない。

休業補償的なことについては、国の方から細かいところも出てきていないので、明確には答えられないが、現在の状況については、学校を通じて調査をしていきたいと思う。

① 職員の資質向上における三役の指導方針と危機管理について



甲斐 光徳 議員

問 甲斐光徳議員 村政を切り盛りする行政の手腕は、県内でも高く評価されていると同時に、職員個々の能力は非常に高く、優秀な人材が豊富である。活気ある村づくりと村民が暮らしやすい生活

環境を整える地域密着型の構築には、村民と行政が一体となり、信頼関係を築く必要がある。時代の流れと共に人口減少が進む中で、地域的な多様性の変化・複雑化する中で、職員の仕事意識も大きな変換期を迎えている。村政の将来にわたるビジョンの明確化を踏まえて、職員の資質向上に向けてどの様に取り組んでいくのか、村長の考えを伺いたい。

西川村長

答 複雑多様化する行政課題に対応していくために、職員一人一人が意識改革を行い、行政の役割を認識することが重要である。行財政改革大綱に基づき、職員の能力開発や幅広い研修を通じて、職員の資質の向上を図っている。今後は、更に村民から常に厳しい目が向けられていることに自覚を促し、職員相互の連携も図り、村民本位の行政を推進し、村民の信頼に応え

られるよう努めていく。

甲斐光徳議員

問 甲斐光徳議員 地方公務員としての使命感、倫理観、知識や技能に基づく実務処理などは通常の研修で実施をされている。行政の仕事は大きく変わるものではないが、人口減少の中で、1,500人の本村の将来像、村政の方向性、村民が安心して暮らせる政策定義等について、職員が自覚し理解し、組織の目的を最大に発揮させる、高度なマネジメント知識が求められている。村長としての村政に対する施策が、職員に浸透しているのか確認したい。

西川村長

答 西川村長 村の状況を見ながら、複合的に各課で練り上げる等提案している。村政の方向性も、職員の共通認識として理解している。

② 不在地主の土地対策について

甲斐光徳議員

問 甲斐光徳議員 不在地主の面積が全国的に増加の傾向にある。要因として、後継者がいない、人口流出による不在地主の増加等様々な問題もある。本村では、土地村外移動防止要綱をいち早く制定し、多くの面積を村内に留め、各種の基盤整備に大きく貢献している。人口減少が続く中で多くの課題も山積しているが、この土地対策は将来的に避けて通れない重要施策と考えるが、行政としての方向性を伺いたい。

西川村長

答 西川村長 全国では民有林の約4分の1が不在地主という、厳しい現実がある。本村では、地籍調査が終わり、固定資産税も68年間完納され、他に類を見ない良好なところである。近年、村

外地主を中心に、土地に関する相談が森林組合、民間、役場等にも増加している。土地村外移動防止要綱に基づき、親族、近所、村内の人、森林組合、村という順に相談を勧めている。寄附という形で村が受け入れた例もあるが、土地の相続登記など重要な課題もあり、行政として立ち入ることのできない部分もある。

甲斐光徳議員

問 甲斐光徳議員 土地の相続等、所有権移転問題が重要な課題と捉える。今後は、様々な形で相談に来ることも予想されるが、村としての考え方、方向性を明確に出して行くの必要である。

西川村長

答 西川村長 不在地主の解消につながるような決定的なものはないが、公民館や地域との連携を保ちながら村民全体で取り組むべきものである大きな課題と捉える。

総括質疑

① 新型コロナウイルスについて(田原)

新型コロナウイルスが県内で確認された、村内各家庭のマスク在庫確認はできないか。

村長

各家庭でマスクがある所は無い所に譲り合うということも周知したい。

② 10人乗り車両の購入について(田原)

全協で質問しました10人乗り車両の購入はどうだろうか。

総務課長

事故等のことも考え、職員よりも運転のプロである交通会社を利用する方が良い。使用料50万円増額して予算計上している。

③ タブレットの導入について(山本)

全協の時に言ったタブレットについて、その後どうなっているのか。

総務課長

近隣の町村の状況とか、導入した場合にどのように利用していくかも含めて、今年1年をかけて検討したい。

④ 令和2年度予算で注視する政策は(甲斐)

令和2年度は、村長就任2年目の本格的な予算と認識している。村行政の仕事は「村民を幸せにする」「村民に喜びを与える」大変重要な役割である。本村の財政健全化に伴い、重要な政策課題に予算を確保し、防災・減災に努め、「村民の視点」に立った立場で、人口減少に取り組み、スピード感のある施策を進めるとあったが、短期的、中期的な施策を含めて、具体的に予算の中で注視する部分はどこか。

村長

まず村民の安全・安心の確保、産業の振興、医療・福祉・教育の充実を柱に進める。村政座談会、陳情・要望を踏まえてできるだけ、村民が望むことを最優先し、身近な課題から取り組んでいく方針である。予算を編成するに当たり、財源の確保が問題であり、連続しての地方交付税の減少、臨時財政対策債等の減額により厳しい予算編成となった。2億円の基金を取り崩し、村民の皆さんが喜ぶ身近な課題等、価値あるものを何処に提供できるかに尽きると考える。

⑤ 森林経営管理制度について(甲斐)

森林所有者が管理できなくなった山林を自治体が管理する、森林経営管理制度が、県内の24市町村で森林所有者に意向調査の準備に着手している。令和2年度の体制として、どのような取り組みをしているか。

甲斐光徳議員

森林環境譲与税の項目にあるが、本村では森林経営計画がなされており、森林経営管理制度には該当しない。

産業課長

⑥ 新型コロナウイルスの対策について(尾形)

春祭りのシーズンとなるが、村としての何か基準があるのか。

村長

非常に難しいものがあるが、公民館総会も近いし自己防衛に努めて、各自が注意を払って行くべきだ。神事については、外部の招待を自主的に控える等、危機管理を持ってやるべきだ。

⑦ ふるさと物産館「海幸・山幸」について(岩本)

ふるさと物産館「海幸・山幸」が現在の場所まで6月までの営業、今後の代替え地の準備について。また、

⑧ 中央公民館の駐車場について(岩本)

以前の一般質問でも聞したが、その後の対策が取られていない。503号シンポジウムでのシャトルバスの利用が唯一の行政の対策であった。病院跡地の駐車場が狭くなり、確保が厳しくなっている。今後の対策はどうか。

教育課長

中央公民館には2つの課題がある。1つは、イベント開催には県道の路上駐車。2つ目は、老朽化の間

題。築57年経過しており、この問題解決のため、平成30年度に検討委員会を開催。令和元年度に設計会社に2つの依頼をしている。1つは既存の中央公民館は現状で、駐車場の整備は可能か。2つ目は、立て替えを含めて駐車場の整備をする場合、次年度以降、資料を基に検討会を開催していく。

⑨ 椎茸の種駒補助について(岩本)

椎茸の種駒補助が2万個以上に限られている。産業振興のためには底辺の拡大も必要。枠を外して生産者に補助していく事は出来ないか。

産業課長

椎茸振興を一つの産業としてしているのであれば、ある程度の植菌は必要と考える。発生量と出荷額を考えた場合、2万個以上の植菌と定めている。

⑩ 小原井・財木線の補修工事について(岩本)

小原井・財木線の道路補修工事はいつ入るのか。建設課長 令和2年度で予算化しているが、半分程度の補修と考えている。

⑪ 造林補助・下刈補助について(山本)

森林組合作業班も、造林や下刈作業で悪戦苦闘しているようですが、もう少し上乗せ補助ができないか。産業課長

下刈補助金の上乗せですが、令和2年度で村単での予算計上をした。

⑫ 新型コロナウイルスによる産業への影響について(梅田)

新型コロナウイルスによる産業の影響で、木材価格が下がっているが、どのような情報が入っているか。

村長

人への影響、命だけでなく経済に大きな影響を与えている。報道等で押さえて

いる程度であり、まだ、木材需要の状況、椎茸の関係も的確な情報が入っていない。

⑬ 森林組合第1工場問題について(梅田)

加工場が窮地に追い込まれている。機械の老朽化、製品の価格問題、他との競争が激しくなっており、極めて困難な事態を迎えている。森林組合、行政、議会と一体となって今後の森林・林業・木材産業について注視していく必要がある。

村長

加工場の国道沿いにある第1工場が閉鎖という意向であり、決定と受け止めている。土地は村有地であり、建物・設備は森林組合である。放置することも出来ないが、今後の活用については新たな財源も伴う。広域森林組合の所有であるので、諸塚村一自治体が意見を言う部分でもない。

⑭ 移住・定住問題について(梅田)

立岩の神楽に大勢の人において頂き、桂神楽も新たな境地が開かれた気がする。来客された方との話しを聞くと、諸塚村に魅力を持って、住みたいという方が急に増えている様な状況である。移住・定住は非常に難しい問題であるが、住宅環境を整えよとの要望もある。

村長

諸塚村に就職して頂くためには、住環境の整備と働く環境の整備だと思ふ。地域活動に参加しながら生活したいとの以降もあると聞く。空き家の活用もあるが利権関係が解決されれば、リフォームの手助けとかやっていくべきと考えるが、一過性でなく長く住んでもらう等の調整面もある。

⑮ 森林環境譲与税の用途について(梅田)

森林環境譲与税の用途に

跡地利用は特に地元の方との協議が大切。教育委員会や行政からの意見よりも、地元の見解が重要である。今後も協議をしていく。

教育長

⑯ 国道503号の推進について(梅田)

国は、割と前向きだが、県の判断が非常に重い。協議をして県の方に向いて行く必要があるのではないか。

村長

公には言わないが、そういうことで捉えて動いている。

⑰ 生活支援ハウスについて(岩本)

今年度予算で生活支援センターの予算もついているが、予算の使い方はどうか。住民福祉課長

再開を一応できるような考え方で、人材も確保していきたい。再開できたとき

ついて、道切(道路整備)に使用できないか。村長 全課に共通する問題であり、単独事業とかを含めて活用できるものはないかと検討している。

⑱ 自伐林家の対応について(岩本)

自伐林家の対応について、是非この森林環境譲与税で林業機械購入ができないか検討して頂きたい。

⑲ 産業振興について(中田)

村長の所信表明の中で、最重要課題で産業振興を取り上げていた。木材・椎茸・茶・牛であるが、新型コロナウイルス関係から、木材価格の低迷、椎茸の不作、茶の販売不振等、消費量が減ったことが考えられる。4大産業をこれからどうしていくか。

村長

古くから複合経営で諸塚

に、運営ができるよう予算は組んでいる。⑳ 有害鳥獣の一斉駆除について(岩本)

一斉駆除の方法だが、子供が腹に入っている時期に駆除をしたほうが、効果があるという意見が出た。金網もですが、一斉駆除が一番効くと思うが。

村長

周年を通じて有害鳥獣駆除が出ているし、シカについては5〜6月が一番効果的だ。年間の一斉駆除の回数を増やしている。特別班の活動についても今回の補正でお願ひして、出勤回数を増やしている。年間の一斉駆除の回数を増やしております。それから特別班の活動についても今回の補正でもお願ひしまして、出勤回数は増えてきておるところです



村の農林家は生計を維持してきた。本村でもこの3〜4年は村民所得も上がってきている。村民の皆さんが誇りを持って、自信を持って産業に取り組んでいくことが一番肝心だと思う。各種制度や事業を有効に活用しながら規模拡大や、現状維持でもかまわないので取り組んでいただきたい。

⑱ 森林組合と諸塚村との関わり方について(中田)

森林組合と諸塚村との関わり方について、どう思っているか。

村長

諸塚村森林組合という単独の組合であれば、じきじきに話す部分はあるが、広域森林組合なので、諸塚が提案しても、同意が得られないかわからない。

⑲ 各種工事の入札執行について(甲斐)

令和2年度の予算の中で、国・県補助事業、村単

独事業の工事費が計上されている。 県内の入札状況を見ると、不落が多い。労働力の不足等問題点もあり、現場の条件によって大きな差が出ている。本村でも条件不利地の中で厳しい状況になっている。今後更にも不況になる厳しい形態があると予想される。このような状況の考え方について確認したい。建設課長 令和元年度は3件の不落があった。現場条件が悪い箇所については不調、不況の状況。今後は業者からの見積もりを採用し、設計を見直していきたいと考える。

⑳ 教育行政について(甲斐)

令和3年3月には七ツ山小学校が閉校され、諸塚小学校で児童は学ぶことになるが、M・C・I学習を基本に地域との融合を図り、学ぶ学校は違うけれど児童同士

の仲は良いと考える。しかし、新たな体制となつて不安を感じる児童もいると思われ、心のケアも必要。令和2年度は不安がなくなるような準備も必要であるがその態勢はどうか。教育長 七ツ山小学校と諸塚小学校で内容の統合に向けてすり合わせの検討を始めています。令和2年度の一年をかけて細かいところまで調整をしていく準備をしています。不安を感じている児童もいると思うが、教育委員会、学校で不安を解消できるように対策を講じていきたい。

㉑ 学校跡地の検討について(甲斐)

閉校と同時に学校跡地の検討も併せていく必要もある。七ツ山小学校は5公民館が管轄する学校であるので、考え方によっては利用価値もあるので早めの検討委員会を開いて協議をして頂きたい。

今年度予算で生活支援センターの予算もついているが、予算の使い方はどうか。住民福祉課長 再開を一応できるような考え方で、人材も確保していきたい。再開できたとき

議会活動報告

月	日	行事名	参加者	場所
12	20	人口減少対策特別委員会	全 員	役 場
	24	第6次総合長期計画審議会・総合戦略推進会議	議 長	役 場
1	3	第74回諸塚村成人式	全 員	中央公民館
	6	諸塚村消防出初式	全 員	村民グラウンド
	9	人口減少対策特別委員会	全 員	役 場
	12	第10回市町村駅伝大会(～13日)	全 員	宮崎市
	15	九州中央3県議員連盟総会	議 長	宮崎市
	19	日向地区村人会	議長、副議長、岩本・尾形・甲斐議員	日向市
	21	九州中央道合同提言活動(～22日)	議 長	福岡市・東京都
	28	林活議連研修会	全 員	宮崎市
	29	国道503号シンポジウム	全 員	中央公民館
30	議員研修会	全 員	門川町	
2	4	人口減少対策特別委員会	全 員	役 場
		市郡議員研修会	全 員	日向市
	7	連合所管事務調査	全 員	美郷町・日向市東郷
	17	広域連合議会運営委員会	総務常任委員長	日向市
	18	県町村議会議長会定期総会	議 長	宮崎市
	25	議会運営委員会・議会全員協議会	全 員	役 場
28	広域連合議会定例会	議長、総務常任委員長	日向市	
3	4	令和2年第1回定例議会(～13日)	全 員	議 場
	5	本会議	全 員	議 場
	6	予算審査特別委員会	全 員	委員会室
	9	予算審査特別委員会	全 員	委員会室
	11	予算審査特別委員会(まとめ)	全 員	委員会室
	13	本会議(最終日)	全 員	議 場
	24	北部広域行政事務組合定例会	総務・産建常任委員長	延岡市
	27	東臼杵郡議会議長会定期総会	議 長	美郷町
4	6	人口減少対策特別委員会	全 員	役 場
	22	五月会研修会(新型コロナ対策)	全 員	役 場
	30	人口減少対策特別委員会	全 員	役 場

随 想

命を守る

岩 本 國 和

朝いつものように牛舎掃除をする。分娩舎に入ると三日前に生まれた子牛の元気がない。尻を見ると下痢をしているようだ。親の乳も張っていない。飲んだ様子もない。白痢にかかったと思えば薬を与える。でも心配になり獣医に連絡する。先生は、狂犬病の予防注射で巡回中であつたが昼ころには来てくれた。弱つていて血管が出にくく、やつとの思いで点滴ができ、できる手当はしていただいた。翌日も早朝に来ていただく。子牛は自力で頭を上げることができない程弱つている。体温36度2分と危険な状態だ。幸いにも点滴の針が入り、薬の投与ができた。最善の治療をしていただいた。あとは子牛の生命力に期待するしかない。

翌日一番で分娩室へ。子牛が頭を上げています。体温を見ると38度4分に上がっていた。望みが出た。「さいしよのミルク」を哺乳バケツで与える。自力で飲んだ。これで助かったと思つた。今は元気な子牛に戻つて飛び跳ねている。

4月16日、安倍首相が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で、全国に緊急事態宣言を発令した。19日現在、感染者数1万1505人、死亡者数251人、今、国民が最善の対応を取つて、一日も早く終息し、普段の生活ができることを願っています。

編 集 後 記

今年の春も満開の桜が私達の目を楽しませてくれました。

季節は何事もなく廻つてくるのに、今、全世界が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、不自由な生活を強いられています。

基本的な生活習慣を心掛けみんなでこの難局を乗り越えましょう。

気分転換に諸塚山のアケボノツツジを見に出かけてみませんか。(田原)

(編集委員)

山本多喜弥
尾形 浩一
甲斐 光徳
田原 尚美

議会傍聴してみませんか?

今回の定例会は6月19日(金)開会予定です。

心よりお待ちしております。

お問い合わせ：議会事務局
TEL 65-1130